

『学校での学びの成果を地域へ』

◇2月11日(日)、明世小学校において、明世町青少年育成町民会議が開催されました。その中で、小学生・中学生・高校生の発表の場があり、小学生は純真な想いが、高校生からは実行力の高さ、その上での現実的な捉えと新たな決意が伝わってきました。

北中から今回の発表を引き受けたのは、明世町出身の有賀 唯莉さんと竹内 さらさんです。その発表内容は、『総合的な学習の時間』で取り組んだ地域環境についての提言のベストミックスです。今年度から、地域学習の中でも環境に特化して取り組むこととしました。初めての取組内容で、前例がないことから、とても難しかったと思いますが、限られた時間の中で、提言までしっかりとまとめ上げたのは、さすが3年生です。

『明世の未来への提言』と題して、明世の現状（人口、世帯数、一世帯当たりの人数）を示し、課題を「人口減少と子どもの遊び場の減少」と打ち出し、「人口増加を目指し、子ども増加に合った住みよいまちづくりをする」と提言しました。

その具体的方策が「子どもが遊べる場所をつくること」・・・クラスアンケート結果では、「公園」、「室内型娯楽施設」、「飲食店」の順でした。

公園を設置することで、遊具で遊ぶためにたくさんの子どもが来てくれる。見栄えがよくなるといった効果まで考えました。

次は、クラスアンケートから。「家の近くにあったら便利なもの」として挙がったのが、コンビニ、スーパー、薬局の順でした。このような買い物ができる施設を増やすことが2つ目の提言でした。それにより、利便性が高くなり、明世町に住む人も増えるという効果につなげました。

ここまでの流れも、現状、根拠に基づく方策、提言と順序立ててまとめることができます。ただ、これだけでは終わりません。

「しかし、私たちはコンビニやスーパーをつくることはできません。」という出だしから、中学生の自分たちでもできることへとつながります。以下は原文の通りです。

『**私たちにできることは、近所の交流を深めること**』です。例えば、地域のボランティア活動に積極的に参加することで、地域にいる全員が安心安全で、住みやすく暮らせる町になると思います。そんな町になれば、他の市などからの移住者も増加すると思います。私たちも地域のボランティア活動や、挨拶などをして地域の方々との交流をより一層深めていきたいです。』

という、自分たちの立場をしっかりと踏まえた上で、できることを明らかにしているところが素晴らしいです。

そして最後に、明世町の豊かな自然を使って、多くの人を楽しめる場＝アスレチックを作ることが打ち出されます。

実現可能かどうかわからなくても、まずは様々なアイデアを出していくこと、その上で話し合っていくことは、とても楽しいことであり、夢が広がります。

マイナスのことはばかりを憂慮するのではなく、将来の夢を描き、語り合うことも大切にしたいですね。

(次ページへ)

今回の発表にあたり、快く承諾した有賀さん、竹内さん、ありがとうございます！お疲れ様でした。寒い中でしたが、実に堂々と発表することができていました。

地域に住む一人として、明世のために今後も主体的な姿を示していくことを、大いに期待していますね。

